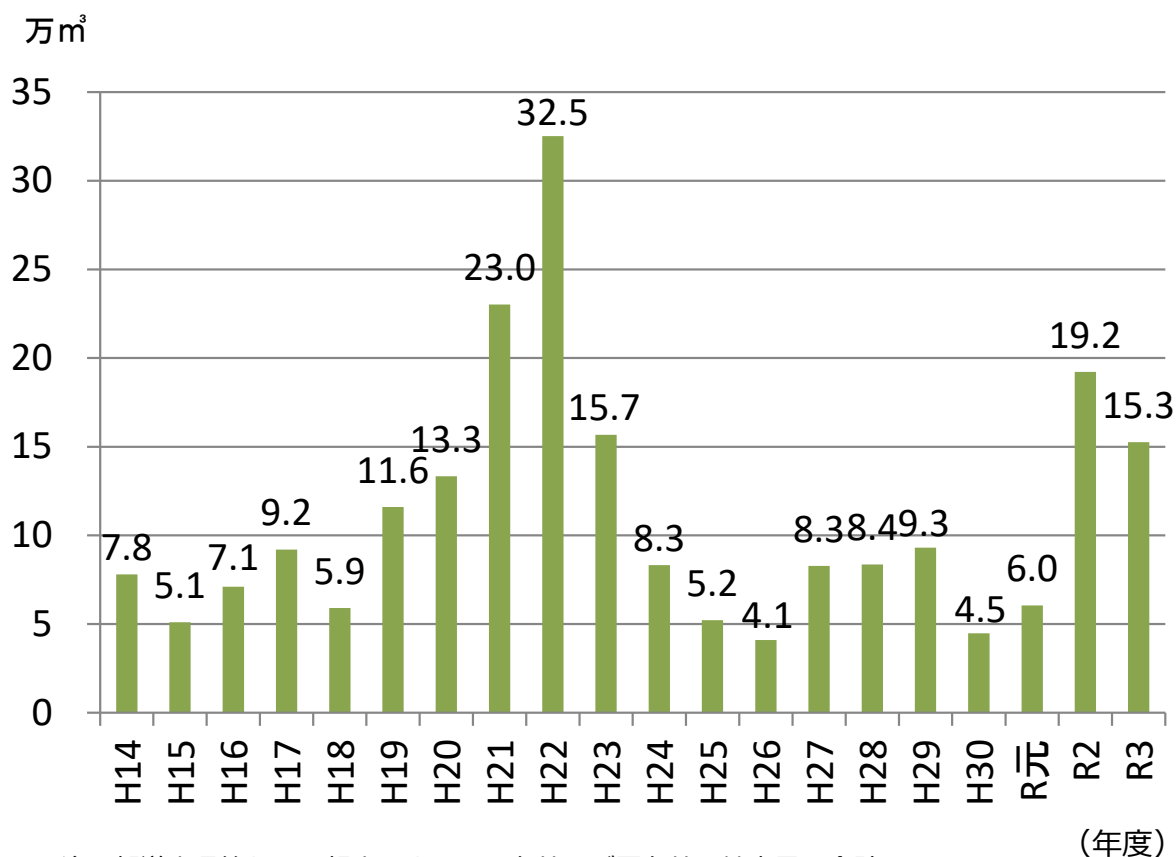


# ナラ枯れ被害について

## 1 ナラ枯れ被害の現状

- 全国のナラ枯れ被害量は、平成22年度をピークに減少し、4万から9万 $m^3$ の間で推移してきたが、令和2年度には約19万 $m^3$ に急増。令和3年度は約15万 $m^3$ と前年度の約80%に減少。
- 令和3年度において被害が発生したのは42都府県であり、そのうち前年度から被害量が増加したのは16都府県。

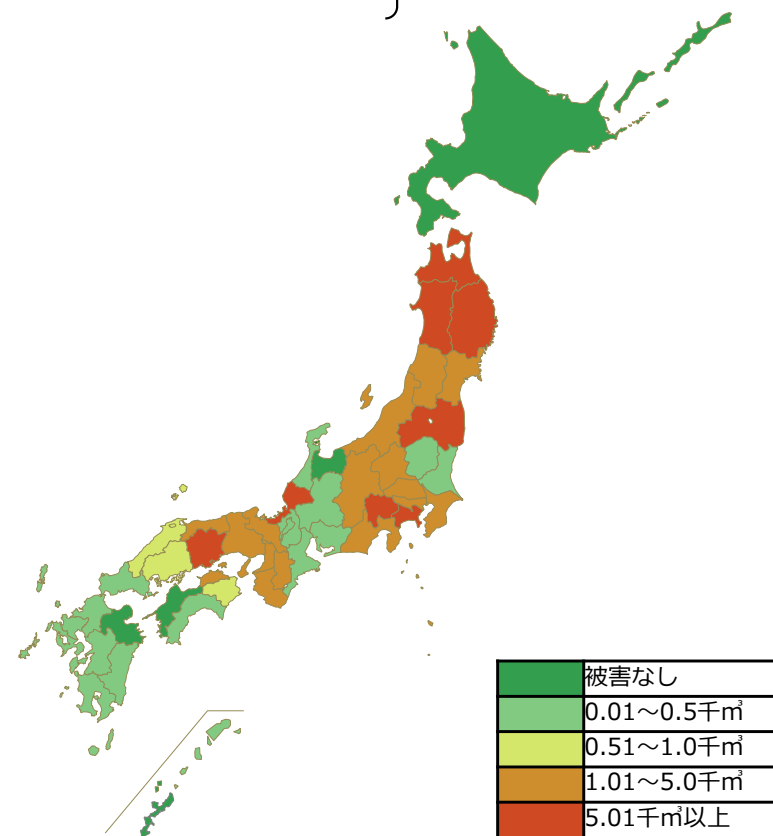
### ○全国のナラ枯れ被害量（被害材積）の推移



注：都道府県等からの報告による。民有林及び国有林の被害量の合計。  
四捨五入により、都道府県別の被害量の合計と一致しない場合がある。

### ○都道府県別のナラ枯れ被害状況 (R3年度)

〔 42都府県：15.3万 $m^3$  〕



## 2 ナラ枯れ被害の発生メカニズム

- カシノナガキクイムシがナラやシイ・カシの幹にせん入する際、ナラ菌が樹体内に持ち込まれてまん延することにより、樹木内の細胞が壊死し通水障害を起こして枯死。
- 樹体内で成長・羽化した新成虫が体にナラ菌を付着させ、別の健全なナラの個体に移動、せん入することで、周囲に被害が拡大。

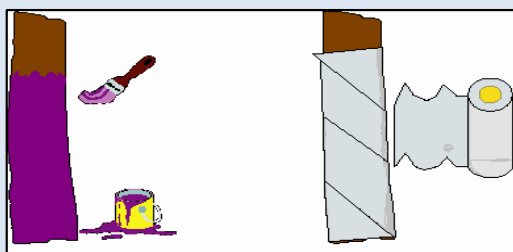


### 3 ナラ枯れ被害対策の概要

- ナラ枯れの防除に当たっては、特に守るべき樹木及びその周辺において、健全木への粘着剤の塗布やビニールシート被覆による侵入予防、被害木のくん蒸等による駆除等を実施。

#### 予防

- 予防手法
  - ・ 健全木へのカシノナガキクイムシの侵入を防ぐため、粘着剤等の塗布またはビニールシートの被覆を実施（春）
  - ・ 樹木を枯らすナラ菌や、餌となる酵母等を殺菌するため、殺菌剤の樹幹注入を実施（春～夏）



粘着剤等を塗布

カシナガの付着を防止するためのビニール巻き



殺菌剤の樹幹注入

#### その他

- ・ ナラ枯れ予防手法の実証、森林管理に係る地域協議会の開催等
- ・ 高齢林の質的・構造的な改善を目的とした整理伐等

#### 駆除

- 駆除手法
  - ・ 被害木内のカシノナガキクイムシを駆除するため、羽化脱出前までに伐倒し薬剤によるくん蒸または焼却、破碎を実施（秋～春）
  - ・ カシノナガキクイムシの誘引捕殺を実施（春～夏）



材に刻み入れ



シートで被覆密閉

#### 〔くん蒸とは〕

被害木を伐倒、玉切りした後、薬剤が容易に材の内部に浸透するよう材の表面に刻みを入れ集積し、全体をシートで被覆密閉してくん蒸剤（カーバム剤）で処理し、材内のカシノナガキクイムシを殺虫する。

地形等の条件により伐倒・集積ができない場所では立木のままくん蒸する方法もある。